

神戸港開港140周年記念

表六甲こんぴら山

雷声寺 秋のもみじ祭り

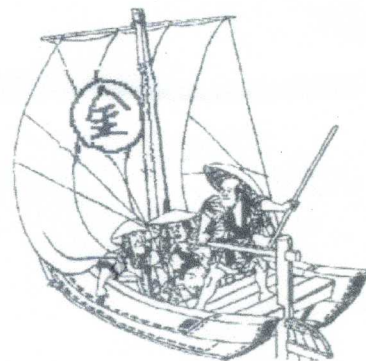
参加費
無料!

●月日 平成19年11月10日(土)・11日(日)

●場所 表六甲こんぴら山雷声寺(地図裏面参照)

11月10日(土)

1. 神戸港開港140周年記念法要 (午後1時～2時30分)本堂にて
 - ・港湾安全祈願
 - ・船舶航行の安全・海運業の興隆繁栄祈願
 - ・開山雷声和尚50回忌法要◎邦楽の奉納演奏あり
 - ・尺八古典本曲と箏曲
倉橋義雄(尺八)・倉橋文子(箏)
2. 『RAISEIJI舞台』(定員あり)本堂にて
 - ・「雷声寺奉納狂言」“盆山(ぼんさん)”(午後3時～3時30分)
和泉流狂言師小笠原匡一門(山本豪一・谷口尚功)
 - ・「雷声寺奉納演奏」(午後3時30分～4時30分)
久保比呂誌(津軽三味線)・博之丞(唄、鳴り物)



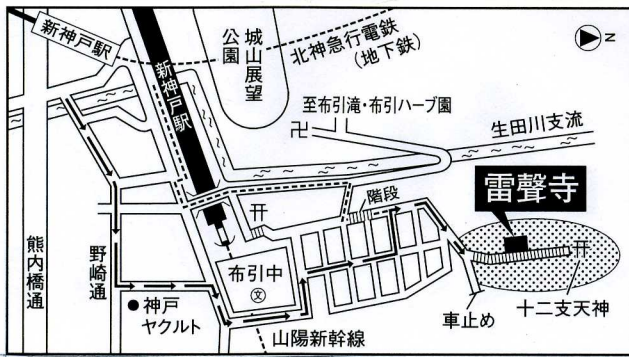
11月11日(日)

1. 『RAISEIJI道場』金比羅講堂にて(午前10時～午後4時)
 - ・「雷声寺安寧写経」(筆ペンによる簡単身近な写経)
2. 『RAISEIJI広場』境内広場にて(午前10時～午後4時)
 - ・「雷声寺野外活動」(つるでかご・リース作り、定員50人)
野外活動指導者 清水敏行 “親子、夫婦、仲間どうぞお気軽にご参加を”

主催：神戸表六甲こんぴら山 雷声寺 (神戸市中央区葺合町東山1-1)

◎現在寺院整備中でお寺への問い合わせは出来ません。案内と参加受付は当日お寺にてとなります。

雷声寺会場付近の地図



(駐車場の用意はしておりませんのでよろしくお願いいたします。)

神戸六甲表こんぴら山 雷声寺

- ① 船舶航行の安全、造船・海運業の興隆、港灣海上の守護、水難防止、旅行安全各祈願の寺
- ② 永代納骨、遺骨の保管、永代供養の寺
- ③ 干支生まれ月心願成就の寺
- ④ 写経を楽しむ道場の寺
- ⑤ 声明(邦楽・日本伝統芸能)守護の寺
そして…
- ⑥ 桜にもみじ、緑とみなと景観愛護の寺

◆雷声寺建立の由来

～雷声寺建立開山祖師・浜田雷声国太郎の顕彰碑文より～

明治6年9月20日、愛媛県生名島に生まれる。12歳にして神戸をスタートに、あこがれの汽船に乗り海上生活に入る。国際船の火夫を務め火夫長となるが、当時の日清・日露戦争で何の保障や弔いもされず海のもずくと消えて戦死して逝った船員たちにはことのほか心を痛めていた。加えて欧州船タイタニック号沈没事故による多くの船員犠牲のニュースは、国内下級船員の無残極まりない生活状況とその処遇状況が記憶の中で重なり合い、浜田国太郎の心はなんとしても船員仲間の生活の安定を…、という熱い思いに燃えていった。



そのような状況のもと、国太郎は船員の劣悪な生活環境改善、給料増額を求め、日本最初の停船ストライキを横浜で指揮をし突入決行させた。以降次々と船員の生活向上の取り組みを進め、成果を上げるなか大正10年、ついに日本海員組合の組合長に就任する。イタリア、スイスでの世界労働会議にも続けて参加、世界に浜田国太郎の名が知られる。鈴木文治、阿部磯雄は近代日本史上を代表する労働運動家であるが、二人は国太郎の特に親しく交えた後輩である。

一方、国太郎、戦争などで顧みられることなく死んでいった船員仲間の精霊供養の法要を営むという切なる思いがいよいよつのも、ついに昭和に入り一転政治の舞台から降りて出家、僧侶生活を始める。昭和10年5月讃岐の琴平宮から一仏金比羅大権現をお迎えし、かねてよりの願いであった船員仲間の供養のため、さらに船舶航行と航路の安全、水難防止そして日本海運業の発展を祈り、摩耶山おもて神戸布引のこの地にこんぴら山雷声寺を建立、現在に至る。

生前海上勤務者十萬から慈父として仰がれた浜田国太郎こと雷声和尚、85歳の生涯を成就し昭和33年3月15日遷化。